

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0997
施設名	若葉の丘保育園
施設所在地	東京都 八王子市
法人名	社会福祉法人 明王会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然・虫(カマキリ、カゲト虫、幼虫、カタツムリ)とアリの巣観察キットの世話と観察
 ・秋の自然探し

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
 園周辺は緑や公園が多く、自然豊かな環境に恵まれている。虫好きの子がいたので虫の世話と観察は、驚きや発見の連続があり「どんはものを食べるのか」「どんは変化があるか」自発的な探究心が育つと考えられ、観察する→気づく→調べる→試してみるという学びの循環が自然とうまれると思った。小さな命を観察する経馬便は、「大事にしたい」「元気がいい」といった気持ちも育て、日々の変化をみることで継続して関わる力と夏から秋にかけて季節の様子を感じながら過ごすことができると思った。

2. 活動スケジュール

7月: カマキリの世話、観察画、カゲト虫、園庭花壇の土の中の幼虫の観察
 8月: アリの巣のイメージ絵、イメージ画、園庭のアリ採集、観察キットで世話
 9月: カマキリの卵の観察、秋の自然探し
 10月: どんぐりの中のジウムシの観察
 11月: 発表会の準備、練習、カタツムリの観察
 12月: 発表会本番、チームごとに観察でおもしろかったこと、気づきなどを発表
 4月: カマキリの卵の変化を観察

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
 虫の観察道具: 虫とりあみ、虫カゴ、虫めがね、マジックループ(携帯型LED顕微鏡)、マイクロデジタルカメラ、顕微鏡観察みるみる、アリの巣観察キット、砂
 書籍: 昆虫図鑑、植物図鑑
 コーナー作り: 「すくわくコーナー」を設置、書籍の絵本棚
 スマートフォン: 写真、動画の記録

4. 探検活動の裏面

<活動の内容>

- ・虫の世話と観察：話し合い(虫のニックネーム、虫カゴの観察時のルール、虫カゴのそうじ当番など) カマキリのエサ(バッタ)を園の畑で捕獲する。描画(カマキリの観察画、アリの巣のイメージ画) 園庭のアリを採集、観察キットで世話、アリの巣の観察
- ・秋の自然探し：お宝BOXを用意してどんぐり・くり、落ち葉など好きな自然物を集める。どんぐりの種類を調べる。どんぐりのオグサエとすすきの穂、落ち葉でフクロウを製作
- ・発表会：12月の発表会では各チームごとに虫自然の観察をおもしろかったことなどを発表

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) 今まで虫に興味がいよいよに
みえた子や苦手と感じていた子も園での観察をきっかけにして虫が好きになってきた様子がある。
カマキリが脱皮して大きくなったことや、バッタを食べているのを見て「すごい」「食べるのが早い」と驚き
があった。8月に脱皮不全になり、写身してしまったカマキリに、スポイトで水をあげたり、口元にバッタを
運んで「食べてね」とよく世話をしてくれた。長生きをすることができてお別れのときは「ありがとう、
バイバイ」と声をかけていた。アリの巣の観察もとても興味深く、アリの通り道がたくさんできたので
「道がたくさんできた」「エサも運んでいる」とよくみていた。時には虫カゴやキットを取り合っ
たり姿もあったが、「一緒に見る?」「こっちがいいよ」と仲良く観察を楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

とても興味を持って取り組むことができた。特にカマキリがバッタを捕食する瞬間を間近で
見たり、脱皮に失敗してしまった時の悲しみなど、図鑑だけでは得られない感情を伴う
実体験を通して、命の尊さ、不思議さ、力強さを肌で感じとっているのではと感じられた。
すくわくコーナーを設けたことで、保護者が送迎時に虫カゴやアリの巣キットを覗き込み、
子どもが「目の色がおもしろいよ」「ぶらさがっているのが好きなんだよ」と夸奖する場面があり、
園での探検活動が親子の対話・共感のきっかけになったと思われ、この体験を通して好奇心、
探検心を育てる取り組みができたことは、子どもたちの成長に大きな意義があったこと
と思います。